1. 鼠ヶ関で漁獲された白いナマコ

世にも変わったナマコが獲れたとの連絡が入ったのは、3月27日のことでした。電話の主によると、磯見漁で獲られたそのナマコ、色が真っ白だというのです。通常、山形の沿岸部で漁獲されるナマコといえば、褐色を地色としたマナマコ（赤ナマコと青ナマコの標準和名）ですから、白いとは言っても薄い黄土色くらいかなと想像しながら、現場に向かいました。

しかし、見てビックリ！生かしてあった実際の個体は、正に純白だったのです（図1）。色以外の外部形態を観察すると、背面や側面にある疣状の突起（疣足、図2）が少し小さい感じはしましたが、全体的な印象はマナマコそのものでした。

この白ナマコ、サンプルとして譲っていただけるということでしたので、早速持ち帰り、詳しく調べてみることにしました。

ナマコの種類は、腹面に沢山ある管状の足（管足）の付き方や、疣足の並び方から判断します。白ナマコの管足は縦3列の集合に分かれており、疣足は不明瞭ではありますが縦6列に並んでいました。これらの特徴は、マナマコの特徴と一致しました。

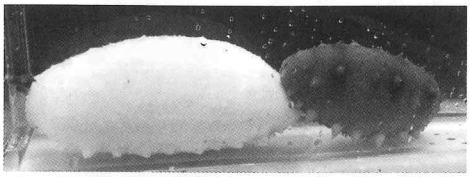

図1　白いナマコ(左)と一般的なマナマコ(右)

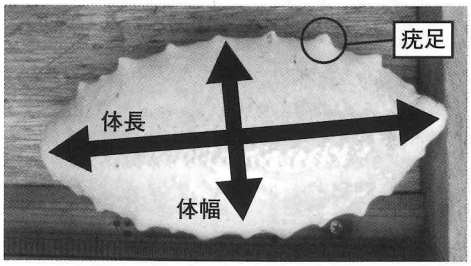

図2　ナマコの各部の名称

ということで、この白ナマコはマナマコの白化個体であると分かったのです。では、なぜ白化したのか？その原因について、外部形態からだけで突き止めることは出来ませんが、恐らく、卵や精子がつくられる際などに、色素に関係する遺伝子を失ってしまったためと推察されました。

白いマナマコについてインターネットで検索してみたところ、数は多くありませんが、全国各地で時々見つかっていて、特に、瀬戸内地方では、幸運を呼ぶ縁起物として扱われているとのことでした。そこで、食味試験は急遽中止となり、飼育することにしました。

年度変わりに現れた珍客が、幸運をもたらしてくれることを期待しています。参拝してご利益にあやかりたい方は、三瀬に在る新魚種生産棟までお越しください。

2. 最近のナマコ研究

それにしてもナマコは不思議な生き物です。その体を構成するのは、殻と呼ばれる本体、口、そして消化管が主であり、目や鼻、耳などの感覚器官は無く、心臓も脳も無いのです。

さらに、長さを測ろうにも伸びたり縮んだりと変化が著しく、体重を量ろうにも体内に溜めた大量の海水を出し入れするため、どちらもままならず、生きた状態できちんとしたサイズを把握することが出来ません。

麻酔を施せば正確な体長（標準体長）が測定出来るのですが、食品となる漁獲物に対して薬品を使うことは出来ませんので、多くのサンプルを測定することは、これまで現実的に不可能とされていました。

こういった事情から、ナマコは馴染み深い生き物でありながら、魚類等に比べて研究が進まず、赤ナマコと青ナマコの分類についても未だ決着していないのです。

ところが、近年になって、徳島大学の先生たちによって、画期的な標準体長の測定方法があみだされました。その方法とは、デジタルカメラで撮影した写真から体長と体幅（図2）を測定し、計算によって標準体長を求めるというものです。ナマコは体長が伸びると体幅は縮み、反対に体長が縮めば体幅は広がります。この体長と体幅の関係を、多数の生きた個体を延べ12万回も測定することで、計算式に表したのだそうです。この方法であれば、現場では写真を撮るだけで、あとはパソコンの画面上で簡単に標準体長を求めることが出来るのです。その結果、多くのサンプルを測定することが可能となり、これまで以上にナマコの研究が進むものと考えられています。この方法について、さらに詳しく知りたい方は、紹介されているホームページ（http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/aragimo/page28/page42/page42.html）をご覧ください。

3. 謝辞

最後になりましたが、貴重なサンプルをご提供くださいました鼠ヶ関地区の第二港丸富樫様、仲介していただいた県漁協念珠関総括支所の菊地様に心から感謝申し上げます。

水産試験場浅海増殖部　研究員　野口　大悟

● 漁船事故おきて気がつく事故防止